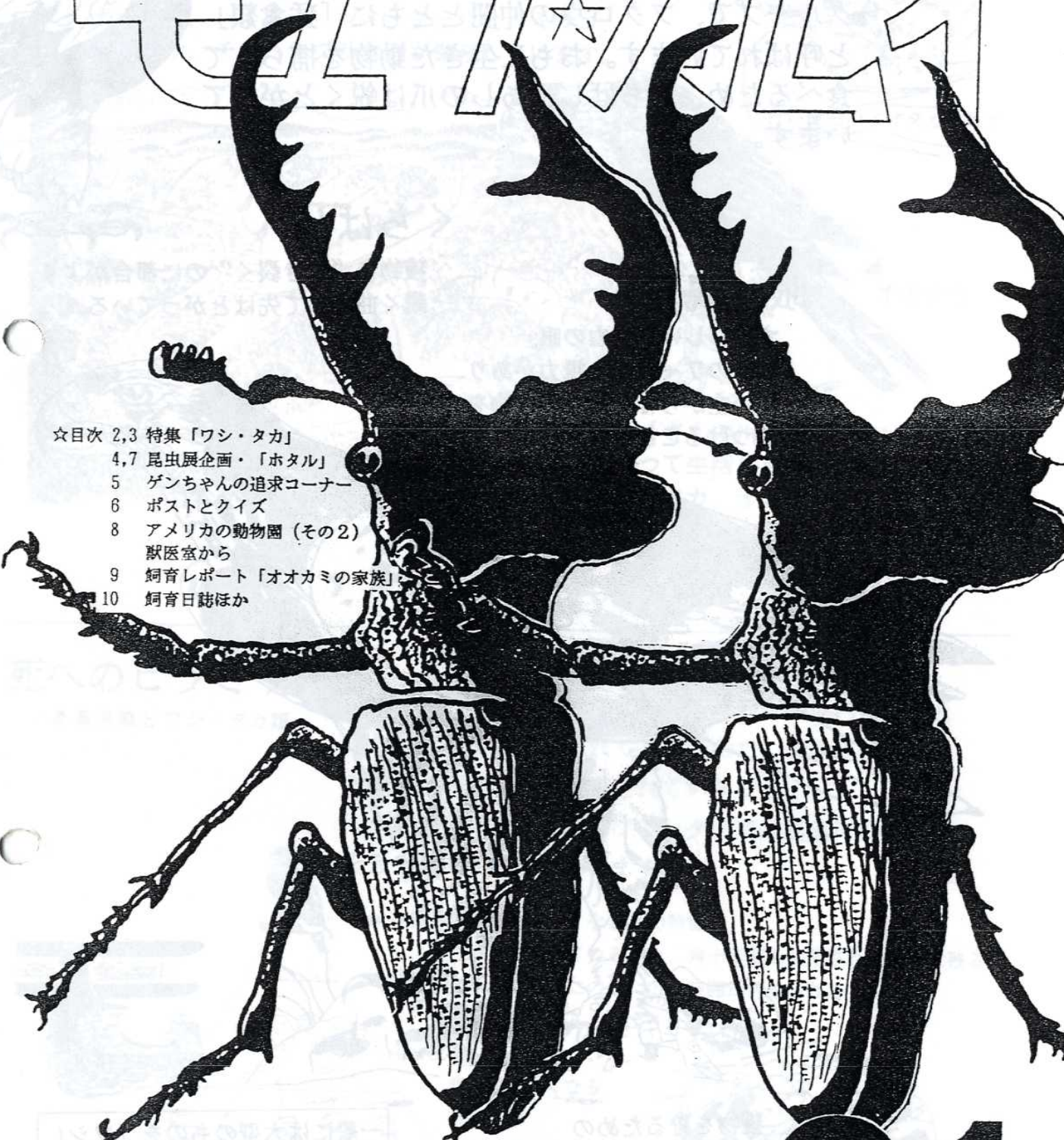




モスクカマイ

- ☆目次 2,3 特集「ワシ・タカ」
- 4,7 昆虫展企画・「ホタル」
- 5 ゲンちゃんの追求コーナー
- 6 ポストとクイズ
- 8 アメリカの動物園 (その2)
- 獣医室から
- 9 飼育レポート「オオカミの家族」
- 10 飼育日誌ほか



☆ ミヤマクワガタ

Lucanus maculifemoratus

・少年の日々、このミヤマクワガタのカッコよさにどれほどあこがれただろう。
なにしろ、ミヤマ一匹で他のクワガタ10匹以上の価値があったのだから。

JUL.
1990
NO. 21

ワシとタカ

▶ 巨大なオオワシのくちばし

ワシやタカはワシタカ目に分類されている鳥のグループで、フクロウの仲間とともに「猛禽類」と呼ばれています。おもに生きた動物を捕らえて食べるため、くちばしやあしの爪は鋭くとがっています。



くちばし

獲物を“引き裂く”のに都合がよく、鋭く曲がって先はとがっている。

眼 (視覚)

すばらしい解像力の眼。ヒトの7-8倍の視力があり、高い空からでも地上の獲物を見つけることができます。



あし 獲物を狩るための曲がった鋭い爪。獲物を突き刺し、にぎりつぶす。

一般には大型のものを「ワシ」小型のものを「タカ」と呼ばれているが、特に違いはない。

● ワシタカ目は南極を除くほぼ世界中に約280種が生息しています。

北海道にはワシタカ科14種、ハヤブサ科5種が分布し、オジロワシ、クマタカ、トビ、ノスリ、オオタカ、ハイタカ、ツミ、チュウヒ、ミサゴ、ハヤブサ、チゴハヤブサなどが繁殖しています。



白い産毛のオオタカのヒナ



オオタカ

● 山で囲まれ、たくさんの川が集まっている旭川はタカやハヤブサにとって生活し易いところのようです。近郊の森林ではクマタカ、オオタカ、ハイタカなどが繁殖し、チゴハヤブサは市内でもよく繁殖しています。「鷹栖」という地名があるのは、そんなところからきているのでしょうか

死へのピラミッド

— 農薬汚染とワシ・タカ類 —

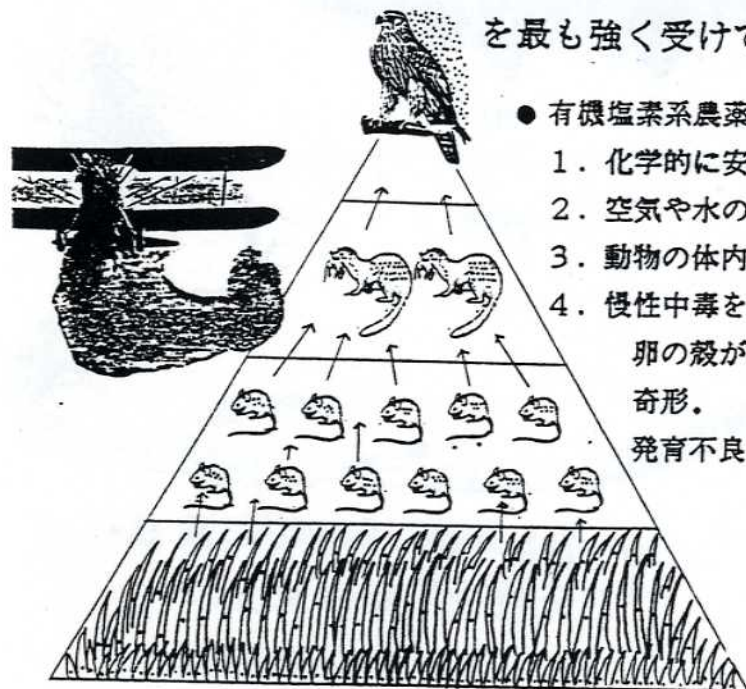
● DDTのような農薬(殺虫剤)は動物の体内に入ると脂肪組織の中に蓄積されてしまうので、食物連鎖の上位者ほど農薬が体内に濃縮されていきます。

食物連鎖の頂点に立つワシ・タカ類は農薬汚染の影響を最も強く受けてしまいます。

● 有機塩素系農薬(DDTなど)の特徴

1. 化学的に安定しているため、何十年間も使用された地域に残る
2. 空気や水の流れにより、広い範囲が汚染される。
3. 動物の体内に入ると排出されない。
4. 慢性中毒を起こす。

卵の殻が薄くなる。
奇形。
発育不良。



▲ DDTの影響で殻が薄くなってしまい、抱卵中に潰れてしまったハヤブサの卵。

